

## 第 92 回日本感染症学会学術講演会

### 【演題名】

医療機関等における感染症集団発生時の緊急対応方法：IRS (Infectious diseases Response Service)から得られた知見

【演者】石金正裕<sup>1,2</sup>、大石和徳<sup>3</sup>、大曲貴夫<sup>1</sup>

### 【所属】

<sup>1</sup> 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター

<sup>2</sup> 東北大学 大学院医学研究科 グローバル感染症学講座 感染症疫学分野

<sup>3</sup> 国立感染症研究所 感染症疫学センター

### 【背景】

感染症緊急展開チームを組織し感染症危機に迅速対応することで国内外の感染症危機対策に貢献できる。しかし現在本邦ではこのような組織は限られている。我々は医療機関等を対象に、国際医療研究開発の研究班活動として IRS を 2014 年から展開している。

### 【方法】

国立国際医療研究センターに感染症危機相談窓口を設置し、医療機関等からの問い合わせに感染症危機管理評価のために作成したリスクアセスメントツールを使用し対応を検討。必要に応じて国立感染症研究所感染症疫学センターの協力を仰ぎ対応している。2014 年 4 月 1 日から 2017 年 10 月 16 日までの事例を検討した。

### 【結果】

研究期間中 29 事例認めた。事例は市中感染 5 例、院内感染 10 例、感染管理 6 例、輸入感染症 5 例、新興再興感染症 3 例。2014 年 3 例、2015 年 5 例、2016 年 13 例、2017 年 8 例。問い合わせ地は、東京 12 例、東京以外の国内 14 例（青森 2、広島 2、新潟、神奈川、千葉、愛知、兵庫、岡山、福岡、熊本、愛媛、沖縄が各 1）、国外 3 例。重大と判断 18 例。緊急と判断 5 例。高リスク 5 例、中リスク 13 例、低リスク 11 例。対応は、資料・地域の専門家等の既存のリソース 14 例、専門家派遣 15 例。外部機関と協力した調査 9 例（FETP3、厚生労働省 3、東京都 2、WHO1）。

### 【結語】

感染症危機対策のニーズが分かった。現在 IRS は研究班活動だが、緊急感染症対応体制強化のために、継続的な感染症危機対策の事業的活動が必要である。

会員外共同研究者：堀 成美